株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

週間展望・回顧（ポンド、加ドル）

April 25, 2025

ポンド、関税相場のなか底堅い動きか

◆ポンド、米関税の影響が比較的に低く底堅く推移
◆加ドル、米大統領がカナダ製自動車の関税引き上げを示唆
◆加ドル、28 日のカナダ下院総選挙に注目

予想レンジ
ポンド円　187.50-193.00 円
加ドル円　101.00-105.00 円

4 月 28 日週の展望

来週、英国内では注目の指標は予定されていない。ポンドは引き続き米関税関連のヘッドラインで上下するドルや円に左右される動きが見込まれる。関税相場の継続で市場のボラティリティは高いままだが、市場では「米国での混乱を背景にポンドは市場変動から利益を得る好位置にある」と言う声も聞かれている。ほかの国と比べて英国は米関税の影響が比較的に低いエクスポージャーであることが要因として取り上げられている。

米関税をめぐり、リーブス英財務相は「米国との貿易協定締結は急いでいない」とし、「食品基準で譲歩することはない」と明言した。米政権は英国に牛肉などの農産物の輸入規制緩和のほか、製品に対する関税やその他の非関税障壁の削減を求め、自動車関税を 10%から 2.5%に引き下げるように求めていると報じられた。米政権は英国からの輸入品に 10%、自動車や鉄鋼などの主要分野に 25%と一律関税を課しているが、英国が米国の要求を全て受け入れた場合に、この一律関税の引き下げや撤回を決めるかどうかは不透明だ。

来週、加国内では 2 月 GDP の発表が予定されている。カナダ中銀（BOC）は先週の会合で「米国の関税措置の影響を見極めたい」とし、8 会合ぶりに政策金利の据え置きを決定したが、「経済が大幅に悪化した場合は積極的な緩和策を取る準備ができている」とした。経済データが景気の悪化を示す内容となれば、次回の 6 月会合で利下げを再開するだけではなく 0.50%と大幅利下げに踏み切る可能性もある。トランプ米大統領は今週、カナダ製自動車に対する 25%の関税を引き上げる可能性に言及しており、関連のヘッドラインにも注目。

また、加ドルの動きに影響は限られると想定されるが、28 日には下院の総選挙が予定されている。世論調査によると、野党保守党は年明けに支持率で与党自由党を 20 ポイントリードしていたが、最近では「対トランプ」で期待が高まる自由党に後れを取っている。関税政策などを巡ってトランプ米政権との関係が冷え込むなか、金融の専門家で国際派のカーニー首相の人気が高まっている。3 月に首相に就任した後、最初の外遊先に英仏を選ぶなど対米依存の脱却に動く姿をアピール。米国依存を減らして経済を再構築する必要性を訴えている。「トランプ米大統領に対抗できる候補者選び」に有権者の関心が集まるなか、今週の世論調査では自由党の支持率が約 44%、保守党が約 36%と、自由党が 343 議席の過半数を獲得すると見込まれている。

4 月 21 日週の回顧

今週はドル売りが一服。トランプ米大統領がパウエル FRB 議長の解任を否定し、対中関税の引き下げを匂わせるなど強硬方針が軟化したことを受けて、米国の「トリプル安（株安・債券安・通貨安）」に巻き戻しが入った。ポンドドルは 1.32 ドル前半まで上値を切り下げ、ドル／加ドルは 1.39 加ドル台までドル高に振れた。対円ではドル円の切り返しと米株の上昇を支えに、ポンド円は 190 円台、加ドル円は 103 円台まで持ち直した。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.